

## 問題【国語】

次のパラオ語を日本語に直しなさい。

- (1) kabi
- (2) tobas
- (3) tanuki
- (4) tukarenaosu

## 豆知識 雑学コラム

## 日本語由来の言葉

今日はパラオの言葉を見ていきます。パラオは太平洋に浮かぶ、面積が関市と同じくらいの小さな島国です。この国は、1914年から終戦まで日本の統治下にありました。そのため、今でもパラオ語の単語のうち、25%は日本語からの外来語と言われています。そんな日本語の影響を強く受けているパラオの言葉を少し見ていきましょう。

一つ目の kabi は「カビ」のことですね。また、パラオではそこから「カビが生えてしまった食べ物」という意味が派生して「賞味期限が切れたもの」という意味で使うことがあるそうです。次の tobas は「とばす」ですが、日本語では「何かをめがけて、手元から勢いよく放つ」や「水分などを除く」などいろいろな意味で使いますが、パラオ語では「急ぐ、スピードを出す」という意味でしか使いません。kabi や tobas のように外来語がもとの言語から意味が変わってしまうのは、パラオ語にしか見られないことではありません。日本語でも、「短い時間の労働」を「アルバイト」と言いますが、もとのドイツ語では「労働全般」をさします。外来語はもとの言葉では通じないこともあることを覚えておいてください。

3番目の tanuki は「タヌキ」ですが、実はパラオには動物の「タヌキ」はいません。そのため「tanuki」を動物のタヌキではなく、「お腹の大きい人」という意味で使っています。日本人が持ってきた信楽焼のタヌキの置物のお腹から連想して、そういう意味が生まれたと思われる。

また、tukarenaosu は「疲れなおす」ということですが、これもパラオの言葉では「ビールを飲む」という意味になります。これも日本人が仕事の後にビールを飲みながら、「疲れが取れる！」と言っていたことから生まれたと考えられます。tanuki も tukarenaosu も意外な意味ですが、由来を想像するとほほえましいですよ。

他にもパラオ語には日本語由来の言葉がたくさんあります。パラオに行くことがあれば、そうした言葉をたくさん覚えて、使ってみたいものですね。

## 【解答】

- (1) カビ、賞味期限が切れたもの
- (2) 急ぐこと、スピードを出すこと
- (3) お腹の大きい人
- (4) ビールを飲む